

今、鎌ヶ谷市に必要な施策は？

- いつでもどこでも無料で PCR 検査体制を!
- 緑豊かな自然と共に生きる街 再生エネルギー(太陽光)で自治体発電
- エッセンシャルワーク(社会に必要な仕事)を正當に評価する街
- 医療・介護・福祉・教育を“公”で実現する分かち合いの社会
- 学校給食の無償化と有機農業の推進
- 公開性と透明性の市民自治の街づくり

2020年1/16 新型コロナウイルスの感染者が日本で発生して9ヶ月。鎌ヶ谷市でも9/17 現在69名の感染者。有料老人ホームでのクラスター発生。医師会の努力でPCR検査ドライブカーが導入されているがPCR検査の十分な体制になっていません。又この9ヶ月コロナパンデミックの間にこれまでの“失われた30年”が作り出してしまった医療資源の崩壊、介護従事者・保育従事者への処遇の悪さと人材不足、住民への居宅政策のなさ、生活保護申請者への無料低額宿泊所提案、コロナウイルス発生の原因環境破壊などの問題点があぶりだされました。経済・社会の抜本的転換が求められています。国の政策の転換と同時に、否それ以上に基礎自治体である市町村から“未来に希望を持てる構想・ビジョンへの転換”を作り上げていく必要があります。

これらの課題への鎌ヶ谷市の対応策は出されていません。

鎌ヶ谷市は2019年1月には2019~2020年後期基本計画第4次実施計画(補正)をつくり、2019年12月「鎌ヶ谷市基本構想(2021~2032)」を決定しました。そして2021年~2026年の「総合基本計画前期基本計画第一次実施計画」の策定作業が始まっています。(2021年1月に案が出されます)



この実施計画の中ではコロナ禍であぶりだされた諸課題に対して抜本的な対策・施策を展開することなく、ただ新京成高架事業・跡地利用・北千葉道路を見据えた事業など公共土木事業“未来への投資となるまちづくり”と“行財政改革・持続可能な行政運営”とが出されているだけ・・・

鎌ヶ谷市基本構想(2021~2032)では「みんなでつくるふるさと鎌ヶ谷」「人と緑と産業が調和し未来へつながる鎌ヶ谷」として5つのプロジェクトが出されています。

1)誰もが健康で生き生き暮らせるまち 2)子どもの生きる力をはぐくむまち 3)自然と調和した災害に強いまち 4)にぎわいと活力に満ちた緑あふれるまち 5)豊かな心と生きがいを実現できるまちと。

5つのプロジェクトはあらゆる領域について示しているなのでこの構想をより豊かにする基本計画が必要です。

「ポストコロナは諸課題を解決する新しい時代が変わっていかなければならない」と多くの方から示唆されています。これまでの延長ではだめなのです。然るに鎌ヶ谷市の第一次実施計画は2019年1月補正の“新鎌ヶ谷土地区画整理区域に接する西側地区について市街地整備に向けて”を進める形で「未来への投資となるような街づくりの推進」が示されるだけ。コロナ禍は人間の環境破壊、新自由主義経済の結果とも指摘されているのですから、これらを解決するための11万人住民の生命・健康の問題、自然環境の問題、労働環境・居住環境、

新しいエネルギー政策といった“分かち合いの経済・社会”を鎌ヶ谷市の現物給付サービスで実現していく街づくりの基本施策が必要なのに語られていません。

北千葉道路のインター、新京成高架下、跡地利用・新鎌周辺の土地利用は大切な課題ですがそれだけではポストコロナには対応できません。一人ひとりに寄り添う鎌ヶ谷の分かち合いの仕組み・システムを作り上げていく必要があります。

《具体的には、》

新型コロナ対策とグリーンニューディール

まず最初にコロナウイルス対策を鎌ヶ谷市として実現させましょう。「いつでも、どこでも、何度でも無料で受けられるPCR検査体制」を。“検査・発熱外来・軽症者・重症者への医療体制の整備。国・県を待つのでなく”鎌ヶ谷モデル“を作りましょう。

コロナパンデミックの原因は？異常気象の原因は？自然を壊し、地球環境を壊した経済成長至上主義(新自由主義)の結果です。

温暖化対策をはじめ自然を・地球環境を取り戻す“自然との共生社会”にしていかなければなりません。低炭素、使い捨てプラスチック禁止の世の中に、太陽光などの再生エネルギーの“グリーンニューディール”施策を実現していきましょう。

新型コロナ感染症があぶりだした社会・経済の問題点と“分かち合いの社会”へ

I、エッセンシャルワーカーについているのに正当に評価されていません。

保育園で介護施設で医療機関で働く人々は感染の危険性が高くても休めません。それなのに給料が安いのです(これって変です)。ごみ収集で働く人々も同様です。非正規で働く(多数が女性)人の給料も正しく評価されていないことが露呈しました。“同一価値労働同一賃金”を適用すべきなのです。会計年度任用職員フルタイムの非正規の保育士さん月給196000円はおかしいでしょう。正しい労働政策を鎌ヶ谷市から実現すべきです。

II、医療・看護・介護・福祉の切捨てが新自由主義の下行われてきました。社会的共通資本が“私”によって食い尽くされてしまっています。今回のコロナで保健所の縮小、感染症病床の削減、一般病床の削減計画が医療崩壊の危険性の元凶と指摘されています。“公”の復権で誰一人取り残さないプライマリーヘルスケア、地域包括ケアシステムを作っていきます。

街づくりの方向性、市の役割は、市民が安心して暮らせる医療福祉のケアの街を創ることです。自己責任の“自助”から始まるのではなく“公”から始まる「分かち合いの社会」を創っていくのです。

III、一極集中システムはコロナの前でその脆弱性を示しました。地域分散型のエネルギー、産業、社会を創っていきます。

自治体発電などで再生エネルギーを拡充し雇用と産業も興っていきます。

家族農業を守り学校給食との連携で農家が自立できる鎌ヶ谷の都市農業を。

広域交流拠点新鎌から“医療・福祉の知識集約産業”の発信を。

IV、市民・住民の政策決定への参加のシステムがないゆえの混乱・不安。見えない政治から“公開性と透明性”の民主主義本来の姿に作り変えましょう。

住民投票条例・自治基本条例・公契約条例が実施される街を創りましょう。住民とのタウンミーティングは当たり前な街に。

まだまだ課題はたくさんあります。個人の尊厳を尊重する市民自治の街づくりが急務なのです。“市民が主役の街”をとり戻しましょう。

「民主主義と自治そして平和主義」ふじしろ政夫 047-445-9144

*活動報告 HP に掲載「いい鎌ヶ谷ふじしろ政夫」でアクセスできます。